

平成 29 年度「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト

地方創生推進交付金（第 1 回）実施計画（抜粋）及び事業進捗状況

1. 事業背景

本業務委託は、国の地方創生推進交付金を活用した「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトの一環であり、当該プロジェクトの概要等は次のとおり。

（1）概要

本事業は、佐野市が譲与を受けた栃木県立高等学校の跡地を活用し、地方創生推進交付金及び拠点整備交付金を活用することで、世界中に多くの競技者、ファンが存在する「クリケット」をインバウンド誘客のコンテンツとして利用し、これに関心を持つ人を増やし、これまで以上に多くの競技者や観戦者を集客するための取組を実施する。加えて、日本クリケット協会や国際クリケット評議会と連携し、国際大会が開催可能となる国際規格を満たした施設を整備することで、日本初かつ唯一の国際クリケット場とし、競技者や観戦者を本施設一カ所に集中させ、その集客波及効果により地域の稼ぐ力を発揮させることを目的とする。

また、クリケットの国際大会等の実施で集客交流効果が見込まれるほか、市民レベルでクリケットへの関心が高まり応援することによる地域コミュニティの再生、日本における「クリケットの聖地」としての地域アイデンティティの確立、地域特産品等の販売を通じた情報発信、鉄道を利用した観客が商店街を訪れて商工業が活性化するなど、スポーツビジネスとして地域経済、住民生活等への波及効果を高めていくための事業である。

（2）クリケットのまち

本市は、サッカーに次ぎ世界第 2 位と言われる競技人口を誇る「クリケット」の日本クリケット界を統括し代表する唯一の団体である日本クリケット協会の事務局や、また市内民間企業等が出資しクリケットをサポートする「クリケットのまち佐野」サポータークラブが存在している。

平成 26 年 3 月に定められたスポーツ立市推進基本計画の中でも、スポーツツーリズムを推進するための核として「クリケット」を位置付け、市の PR や経済の活性化を図るための地域ブランドである佐野ブランドに認証するなど、官民あげてクリケット振興に取り組んできている。

一方で、現時点では国内に国際試合の開催できる国際クリケット場がなく、その整備を進める方針を固め、平成 28 年 4 月には佐野市国際クリケット場条例を定めた。

（3）クリケットの市場規模

世界におけるクリケットは、ワールドカップの視聴者数が 15 億人以上、トッププレイヤーの年収が 30 億円以上にもなり、巨大な市場を持つスポーツである。クリケットは国家代表対抗の国際リーグ戦が発達しており、オーストラリア、バングラデシュ、イングランド、インド、ニュージーランド、パキスタン、南アフリカ共和国、スリランカ、西インド諸島（＝カリブ海連合チーム）、ジンバブエでシーズンごとのリーグ戦がある。

また、国際クリケット評議会は、これまでのオリンピック不参加の方針を転換し、国際オリンピック委員会とオリンピック参加に向けた条件について協議を重ねている。特に南アジア諸国で圧

倒的な人気を誇るため、2020年東京オリンピックの次回、次々回大会の際には、オリンピック種目として採択（復帰）される動きもあり、クリケットを活用した誘客施策に取り組むことで、これまで日本国内には見られなかった「新たな人の流れ」を生み出すことができる。

（４）クリケットを活用したまちづくり

例えば、近年、日本への旅行者も急増しているインドでも、日本の野球アニメ「巨人の星」を、クリケットに設定変更し放映され、人気を博し食料品や文房具において関連のキャラクター商品化もされている。経済成長の結果、団体での訪日旅行も増えているが、東京、京都、大阪への訪問が大半を占めているが、①現地人気チームとの交流試合を通じたファン層の獲得、②旅行先でのレクリエーションとしてのクリケット、③「クリケット版巨人の星」の製品や、その他、南アジア旅行者向けの食品（ハラール対応）、宿舎の整備などを通じたスポーツツーリズムの振興を考えている。

そのうえ、地方創生拠点整備交付金を活用し、日本初かつ唯一の国際基準を満たすクリケット専用スタジアム（クリケットパーク）の整備を計画しているが、ここを佐野市の日本国内からの誘客のみならず、インバウンド誘客の拠点と位置づけ、国際クリケット評議会認定の国際大会の開催、海外有名チームの試合やワールドカップに向けた練習合宿など多くの競技者、関係者、それに伴うファンといった多くの集客を図る取り組みを行っていく。この新しい人の流れにより、市内飲食業や宿泊施設の売り上げ増加といった直接的な効果のほか、クリケットパーク周辺における土産店等の新規出店の誘発やクリケット用具の生産、たとえば市内木材を利用したバットの生産や販売事業者の事業拡充など、地域産業界への好影響をもたらしていく。

また、ムスリム（イスラム教徒）が多い南インド諸国（パキスタン、バングラデシュ等）からのクリケット客増加に対し、市内民間事業者向けムスリム理解のためのセミナー開催や食事のハラール対応研修、簡単な英会話セミナーなどを実施することで、ムスリム対応（ハラール対応）の市内飲食業者や宿泊施設を増やしていく。対応事業者が増加することで、周辺地域において、ハラール食品製造業者や販売店の創業につながるものである。これは、将来的に佐野市がムスリムタウンとして、在日ムスリムにも注目され、クリケットによらない人の流れ、定住促進が促進される。

さらに、市内に設置された日本クリケット協会と連携し、世界で通用するクリケットの一流プレーヤーを育成するクリケットアカデミーを開講することで、日本国内はもとより、東アジア圏、南インド諸国からも練習生を集めることができ、国際クリケット場周辺の定住人口の増加に貢献する。

併せて、日本クリケット協会と協力体制を確立し、小中学校の体育の授業での実施や社会人チームが創設されるといった、官民一体の推進体制が整っている栃木県佐野市、千葉県山武市、東京都昭島市が連携し、クリケットの認知度向上策や国際大会誘致による交流人口増加を図っていく。また、関係各市にある社会人チームの大会開催を持ち回り開催することにより人の流れを創出し、併せて各地の産品等を紹介、販売することで売上の向上や新規販路獲得などの経済的な交流を促進していく。

将来的には、クリケットを支援する民間事業者の団体「クリケットのまち佐野」サポータークラブの会員企業と連携し、企業チームの創設や日本代表選手の雇用といったソフト面・日本で唯

一の国際クリケット場が整備されているハード面の両面で競技環境が整備された本市への就職や移住を促進し、本市の定住人口の増加を図る。

2. 事業概要（平成 29 年度）

（1）事業期間

「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトは、平成 29 年 7 月から平成 33 年 3 月までの 3 年 9 か月を事業期間として計画している。

（2）取組事業

①日本初 国際基準を満たすクリケット場整備

男子の国際試合が開催可能な規格のクリケット場の整備工事を実施する。（女子規格であれば 2 面を確保。）

②（仮称）クリケットタウン佐野プロモートエージェンシー事業

クリケットを活用したまちづくりを行ううえで、マーケティングの視点をもって事業の収支を判断し、民間投資の呼び込みを行うことを目的とし、クリケットに対する理解と経営感覚の両方を備えた人物を公募にて採用する。

③サービス産業対応事業

訪れる客層から、しっかりと稼げる街づくりを行うため、例えばサービス産業のハラール対応を行う。特に、世界のクリケット愛好国には、バングラデシュやパキスタン等のイスラム教を信仰する人（ムスリム）の多い国も多い。ムスリムには、宗教上食事に対する制約（ハラール）や 1 日 5 回の礼拝を行うといった習慣がある。これに対応できる飲食店、宿泊施設等があれば、安心して佐野市でクリケットをプレー・観戦してもらうことができる。そのために、民間団体である「両毛ムスリムインバウンド推進協議会」と連携し、外国人受入への理解促進やハラール対応のセミナー開催、事業者のハラール認証支援を行っていく。

これは、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの際に非常に多くのムスリムが来日し、東京では宿泊施設が不足することが想定されていることから、その方たちのオリンピック観戦の拠点として、また、東京からの観光ルートの一つとして佐野市を積極的に選んで訪れてもらうことにつなげる。

④旧県立高校空き校舎活用検討事業

本事業の拠点となる佐野市国際クリケット場は、栃木県立高校の廃校跡地を利用したものであり、現在高校の校舎がそのまま残っている。国内でのクリケット合宿というニーズにも対応するため、試合に訪れる選手たちの宿泊施設として活用する。空き校舎を行政によらず民間活力により宿泊施設へリノベーションし、持続的な運営が可能かどうか調査検討する。

（3）進捗状況

各取組事業に係る現時点での進捗状況及び今後のスケジュールは、次のとおりです。今後、進捗状況により変更になる可能性がある。

①日本初 国際基準を満たすクリケット場整備

9 月	工事開始・準備・既存構造物撤去
10 月～12 月	土砂搬入・敷地造成
1 月	グラウンド路盤工

2月 芝張り・スタンド（観客席）設置工

②（仮称）クリケットタウン佐野プロモーションエージェンシー事業

人材募集にむけ、その採用プロセスを検討中であり大まかなスケジュール（案）は次のとおり。

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 9月末 | 公募開始、書類応募受付 |
| 10月中下旬 | 1次選考、通過者発表 |
| 11月中下旬 | 2次選考（合宿形式による選考会を予定しているが、詳細は未定） |
| 12月初中旬 | 最終プレゼンテーション（形式、場所等未定） |
| 12月下旬 | 決定・発表 |

③サービス産業対応事業

民間団体である「両毛ムスリムインバウンド推進協議会」が各種取り組みを実施中。

④旧県立高校空き校舎活用検討事業

8月末から10月末を目途に検討調査を実施します。